

## 第2回協議会だより 《南方部》



—令和5年10月17日（火）15:00～16:40 音楽・文化交流館 大ホール—

### 【実践発表】 ヒューマニティー保育園

遊びを通して育まれる資質・能力について～『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』から捉える～



ヒューマニティー保育園では、「5 education」を特色ある活動、独自カリキュラムとし、子どもたちが心躍る「遊び」と「知育」を考えて保育を進めています。

「5 education」とは、「健康」「環境」「言語」「表現」「愛・人間」の5領域にもとづいた活動の中で様々なことを経験し、好きなこと、得意なことをのびのびと行うカリキュラムである。

その中でも、今回の発表で紹介されていた「右脳遊び」については、「遊びを通して、楽しく！」を大切に、日々の活動に位置づけています。「記憶力」「理解力」「洞察力」「判断力」を司る右脳を刺激するような遊びを取り入れ、子どもたちの中から発見が生まれ、興味・関心が広がるように活動を進めています。

また、異年齢保育にも力を入れています。当番活動や遊びの中で、助け合ったり、教え合ったりするなど、異年齢の中の自分を認識し自ら行動することができるように、年齢の異なるそれぞれの立場を大切に支援をしています。

子どもたちの将来の幸せを願い、子どもの成長過程を大切にしながら支援を進めていることが、子どもたちの楽しい園生活や一人一人の成長につながっているものと感じました。

### 【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



#### ☆ ヒューマニティー保育園の発表について

- ・あまり気にしてなかったのですが、普段の活動の中にも右脳を育てることに繋がっていることが多いことがわかりました。わくわくする気持ちが前向きな気持ちを育てるので、小学校でも右脳を使って解決できる子を育てたい。
- ・異年齢保育はたいへんなことが多いですが、子どもたちが成長しているのがわかりました。もっと異年齢での実践例を紹介してほしいです。

#### ☆ テーマ「遊びを通して育まれる資質・能力について」～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～について

- ・アプローチカリキュラムは保育園・幼稚園単独で立てるものではなく、小学校と一緒に立てることで、よりよい連携ができると思いました。
- ・社会性を育てるためには子どもの考えを尊重することも大事であるが、やらなくてはいけないこともあることを理解させていくことも大切だと思いました。

#### 《参加者からのアンケートから》

- ・ためになる内容が多くあり、実りの多い研修となりました。右脳への刺激の一番はワクワクすることと学んだので、子どもたちにより多くのワクワクを提供していきたいです。（保育所：参加者）
- ・異年齢保育では、年下の子が年上の子を頼ったり、給食当番を一緒にしたりして、10の姿が育っていることがよくわかりました。（こども園：参加者）

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。